

種名称（学名）	タネツケバナ Cardamine scutata		参考文献：田んぼの草花指標（農と自然の研究所ほか）																																																						
分布	全国																																																								
日本名	種漬け花																																																								
主な地方名	メクラゼリ、コメナズナ																																																								
中国名	Wan Sui Mi Ji																																																								
本種写真	生息環境写真	指標に挙げた理由	主な生育場所	大きさ	観察のポイント	類似種	見分け方	生態的な特徴	生活史 関東地方の例(目安)																																																
		指標区分：Ⅰ（Ⅰ）、Ⅳ（Ⅳ） 播種前の種粒を侵種させる頃に咲き始めるので、種漬け花という。	非灌漑期の水田・休耕田・水路	15-30 c m 種子・繁殖体の大きさ：0.6－1（m m）	田の畦など湿った場所にしか生えず、花弁は3-4mmと大きい。	ミチタネツケバナ、 アキノタネツケバナは、1年草。稲刈り後の乾田化した場所や畦道に生える。茎には白い毛が生えるが、無毛のこともある。小葉が全て掌状に浅く裂けるのが特徴。花期は8～10月。	ミチタネツケバナは開花が早く、道ばた。芝生など主に乾いた場所に生える。花弁も2－3 mmと小ぶり。	どちらかというど湿った場所に多く、ロゼットで越冬し、早春から花茎を伸ばして花を着ける。種子は土中深くからは発芽せず、1 c m未満のごく浅い表層からしか発芽しない。花は雌花と雄花に分かれる。葉の形など変異は大きい。【繁殖形態】種子繁殖。果実が熟すと鞘がはじけて種子を飛ばす。【越冬形態】盛夏に葉湿った土中で種子で過ごす。【植食昆虫】カブラハバチ、ニホンカブラハバチ、セグロカブラハバチ、エゾスジグロシロチョウ、スジグロシロチョウ、モンシロチョウ、ツマキチョウ	生育期 開花・結実期 <table><tr><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td></tr><tr><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td></tr><tr><td>□</td><td>□</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>■</td><td>■</td></tr><tr><td colspan="6">1年当たり</td><td colspan="6">1～2世代</td></tr></table>	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	■	■	■	■	■	■	□	□	□	■	■	■	□	□	■	■	■	■	■	□	□	□	■	■	1年当たり						1～2世代					
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月		8月	9月	10月	11月	12月																																											
		■	■	■	■	■	■	□		□	□	■	■	■																																											
□	□	■	■	■	■	■	□	□	□	■	■																																														
1年当たり						1～2世代																																																			
農業との関係	最近の動向	つきあい方	食用部位と調理法	薬用部位と効用	一言うんちく	季節と旬																																																			
水田裏作の麦作などでは代表的な強害雑草。田畑どちらにも生育する。 【許容範囲密度の目安と発生量の調査方法】耕起・代かきのため、水稻作では問題にならない。発生量は単位面積当たりの被度調査や埋土種子調査などで把握。	ミチタネツケバナなど近縁の外来種が数種類侵入しており、タネツケバナとの競合が今後心配される。	早春の水田に白い花を着ける群落は目立ち、昔から名前の由来からして農事暦の目安として注目されていた。温暖間の影響で開花期が早まってくるかもしれない。毎年開花盛期を記録すると良いかも。	辛味を活かして、手早くサッとゆで、お浸しや和え物に。普通の茹で方では独特の風味が楽しめる。	種子を煎じて飲むと咳止め、むくみに効用がある。	稲とともにやってきた草の一つで、畑にも発生するがやはり水田周辺からは離れられない。																																																				